

紀行

越生を起点に史跡と静かな山を巡る

大築山—六万部塚—雨乞山 埼玉県

近藤 雅幸

奥武蔵の山中を行くと石仏、石碑、さらには山城の跡など、いたるところでいしえを忍ばせる文物に出合うことができる。この辺りには坂東武者が駆け抜けた道、坂東三十三力所の一つ、慈光寺に参拝するための道など歴史と時間が降り積もった古い道がそこかしこに通じているためである。

越生駅を起点と終点にしてそんな歴史の香りがする山や峠、さらにはほとんど人に登られていない忘れられた里山をたどってみた。この時期には梅の花もアジサイもないが、かえって人がいないだけ落ち着いた静けさを存分に楽しむことができる。

麦原入口バス停から右に下って舗装道を歩く。あじさい街道と名付けられた山間の村をたどる道である。40分ほどで道は山の懐に抱かれたような村、麦原の中に入る。集落左手の斜面はあじさい山公園と名付けられ、一面にアジサイが植栽されている。

そこを過ぎ、右にせせらぎの音を聞きながら進むと、集落をはずれた先で舗装された道が右に分かれている。傍らに道標があり、その道が城山（大築山）方面に向かうことが分かる。ここは道標に従って右の道に行く。橋を渡り、杉やヒノキの植林の中を



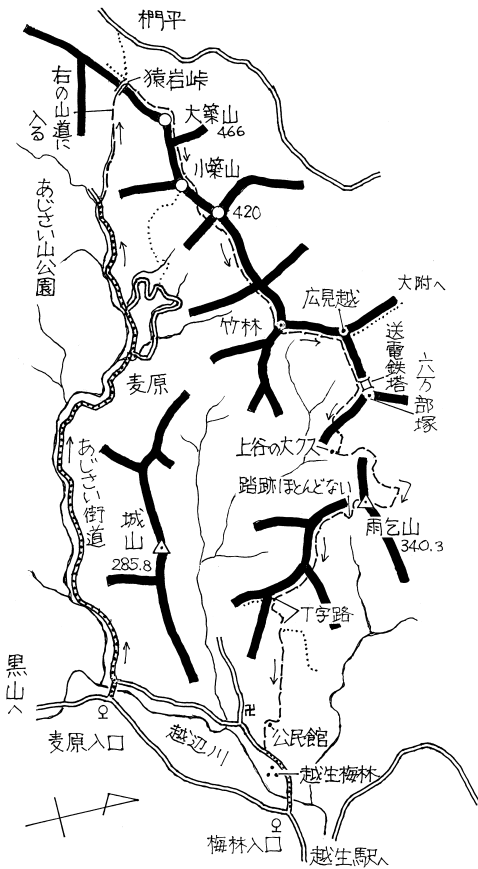
大築山山頂

小さな沢沿いに高みに向かって登っていく。10分ほどで車が数台止まれそうなスペースを最後に舗装道は終わる。その先はあまり手入れがされていない林道状の道である。それを100メートル行かないうちに右手の森へ入っていく心もとない踏み跡が分かっている。分

かりにくいポイントだが、赤テープが目印になる。

朽ちて崩れそうな木の橋を渡り斜面に絡んで登っていくと道ははつきりした歩きやすい道に変わってくる。ヒノキ林の中をつづら折れに登っていくと右に休むのによさそうな小屋掛けがある。猿岩峠はそこからほんの一投足のところにある。

## 大築山―六万部塚と雨乞山付近略図



稜線上をたどる道が左右に延び、峠の先には柵平さくぼらに向かう道が下っている。いかにも奥武蔵らしいうっそうとした植林に囲まれた小さな峠である。大築山（大築城址）へはここから稜線上の道を右へ向かう。

西平・麦原方面に向かう道を右に分け、尾根をたどると間もなく西が開けた柵平一望見晴台である。風情を漂わ

せる山村風景が眼下に広がる。

ここからは急な登りになるが、短いので汗をかく暇もない。飛び出たところが大築城址のある大築山である。すぐ先には弓立山ゆりたけが望め、頂が平らで空堀の跡があるところに城の面影が忍ばれる。一説に、城は小田原北条氏の被官、上田朝直が築城したと言われる。

大築山の先は昼なお暗いヒノキ林の中の道である。いったん下って、先ほど右に分けた西平への道を合わせ、登り返すとすぐに小築山の広い頂に出る。植林の中で見晴らしはほとんどない。頂の中央付近から明瞭な道が延びているが、これは麦原の集落に下る道で、頂のやや左にある大楠・西行杉方面への道がこれから向かう道である。間違いやすいので注意が必要である。

道はアオキが茂るヒノキ林の中を下っていく。尾根の右斜面を絡み、麦原・西行杉への道を右に分けると、すぐに道は平坦になる。やがて竹林に入ると、左やや戻り気味に大附への道が分かれている。



六万部塚

その道に入って、竹林や照葉樹のトンネルを抜けると、まもなく傍らに三面六臂の馬頭観音の石像が立つ峠、広見越に出る。奥武蔵の名刹慈光寺に向かう古の道で、静かなたたずまいの中に歴史の香りが漂う。行く手は大附・西平方面への道、右が六万部塚を經由

して上谷に向かう道である。

右の道に入り、尾根を下って登り返すとすぐに送電線鉄塔「西東京幹線383」の下に出る。左から大附方面からの踏み跡が登ってきている。さらに一息、登りついた木立の中の高みに石碑がある。六万部塚である。

石碑は六万部供養塔で、「旅の僧がここに塚を築いて六万部のお経を納めた」といういわれが彫ってある。少しだけ南に展望が広がる樹下の地味な頂だが、石碑が立つ静なたたずまいに、しみじみとした情感がただよう。

尾根道を南東に下り、左に道を分けてしばらくはヒノキ林の中を行く。明瞭な道だがやや藪つぽいところもある。15分ほどで、道は民家の近くに飛び出る。

この左に上谷の大クスがある。樹齢千年以上の森の主といった風情の堂々たる大木だ。周りにはウッドデッキがあり、間近で巨木の威容を仰ぎ見ることができる。

大クスの左横の山道をそのまま先に



雨乞山山頂

行くと間もなく森を出てやや明るい場所に出る。そこに右へ分かれる道があるので、そちらを行く。道は舗装された林道を横切って森の中を緩やかに登っていく。右から草生した道を合わせ、左に向かって山腹を絡んでいくと、左手から登ってくる幅の広い道と合流す



越生梅林から雨乞山を望む

る。  
これを右に向かうと道は登りになり、やがて山の左を絡み始める辺りで右手に踏み跡を分ける。それをほんのひと登り、たどり着いた所が三等三角点のある雨乞山である。うっそうとした樹林の中で展望はないが、取り残された

ような静けさがどこかわびしげで良い。

雨乞山から尾根を下って南に向かう。まもなく道は東に向きを変え尾根から外れてしまふが、そこで道を外れて南に向かう。踏み跡があるのかどうかも分からないような藪つばい樹林である。ここでは地図と磁石を頼りに尾根をトレースするしかない。

尾根が再び登りにかかると、それらしい踏み跡が現れるので、その踏み跡をたどっていけばよい。藪をこぐところもあるが、奥武蔵らしい雲囲気に満ちた尾根である。

尾根が下りに転じると、やがて丁字路に突き当たる。これを左に向かい、次の丁字路は右に向かう。さらに踏み跡が二手に分かれるところは左の道を取り、下っていくと道は尾根を外れてその右手を絡むようになる。間もなく右に民家が見え、梅畑の脇に飛び出る。幅広の道が横切っているので、それを右に少し下ると左手に公民館がある。梅畑の中の道を5分ほどの、県道に出たところに梅林入口のバス停がある。

(12年12月19日(水)歩く)

**付記** 文物のいわれなどについては主に『奥武蔵をたのしむ』(新ハイ会員、町田尚夫著)を参考にさせていただいた。

● **コースタイム**

麦原入口―40分―あじさい山公園―30分―猿岩峠―15分―大築山―15分―小築山―20分―大附方面への分岐―10分―広見越―15分―六万部塚―25分―上谷の大クス―35分―雨乞山―45分―梅林入口  
〔計4時間10分〕

● **費用**

池袋⇨越生 東武 700円  
越生駅⇨麦原入口 バス 230円  
梅林入口⇨越生駅 バス 190円

● **問い合わせ先**

川越観光自動車

0493-56-2001

越生町観光協会

0492-92-3121

● **地図**

越生 正丸峠(2万5千)  
東京(20万)